

ローマ 7 黙想質問

毎日、神の御言葉に触れる時、次の質問に答えましょう。これらの質問は、聖書の学びを通してイエスの弟子として成長することに集中するのに役立ちます：

- A. イエスから何を学びましたか。イエスは、私に何を語っていますか。
- B. 今日、私はどのようにイエスに従いますか。
- C. この学びを通して、私はどのようにイエスのようになれるか。

ローマ 7:1-6

あなたの結婚相手はだれでしょうか

1 それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。――私は律法を知っている人々に言っているのです。―― 2 夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。 3 ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとえ他の男に行っても、姦淫の女ではありません。

黙想質問：これらの聖句に示されている結婚のたとえについて説明してください。律法に対して死ぬとはどういう意味ですか。

4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

黙想質問：あなたは律法に縛られているのでしょうか、それともキリストに結ばれているのでしょうか。ご自身の考えを説明してください。私たちはどのようにして「神に実を結ぶ」のでしょうか。

5 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。 6 しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

黙想質問：古い方法である律法を守ろうとするのではなく、新しい方法である御霊によって神に仕えるとは、どういう意味ですか。

ローマ 7 黙想質問

7 それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。8 しかし、罪はこの戒めによって機会を捕え、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

黙想質問：律法は罪なのでしょうか。説明してください。律法の役割とは何でしょうか。

9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。10 それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。

黙想質問：なぜ、善きものである神の戒めが、私の中に死をもたらしたのですか。

11 それは、戒めによって機会を捕えた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。

黙想質問：罪はどのように戒めを通して私たちを欺くのでしょうか。

ローマ 7 黙想質問

12 ですから、律法は聖なるものであり、戒めも聖であり、正しく、また良いものなのです。13 では、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪なのです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。

黙想質問：善きことが、私にとって死となったのでしょうか。答えを説明してください。

14 私たちは、律法が靈的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。16 もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。

17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。

黙想質問：14 節から 20 節までのパウロの苛立ちについて、自分の言葉で説明してください。

黙想質問：「肉」とは何でしょうか。

ローマ 7 黙想質問

21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているを見いだすのです。24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

黙想質問：私たちの内側で繰り広げられる戦いを説明してください。一体誰が誰と戦っているのでしょうか。

黙想質問：なぜパウロは自らを「みじめな人間」と呼んだのでしょうか。この戦いに勝利するにはどうすればよいのでしょうか。